えいネ！

つながる、たかまる 地域のちから

四国８の字ネットワークとともに

Vol.1

えいネ！高知東南部

コンセプト

【タイトル】

高知の「良い」という意味の方言「えいネ！」、
この冊子の素材となった高知東南部は「良いところ！」という趣旨、
地域づくりを進めていく熱意とかけ声としての「えい！」を掛け合わせています。

【デザイン】

ひとつひとつの異なる色を持つ地域の魅力とちからをつなぎ、
高めてゆくことを表現しています。

えいネ！高知東南部編集委員会

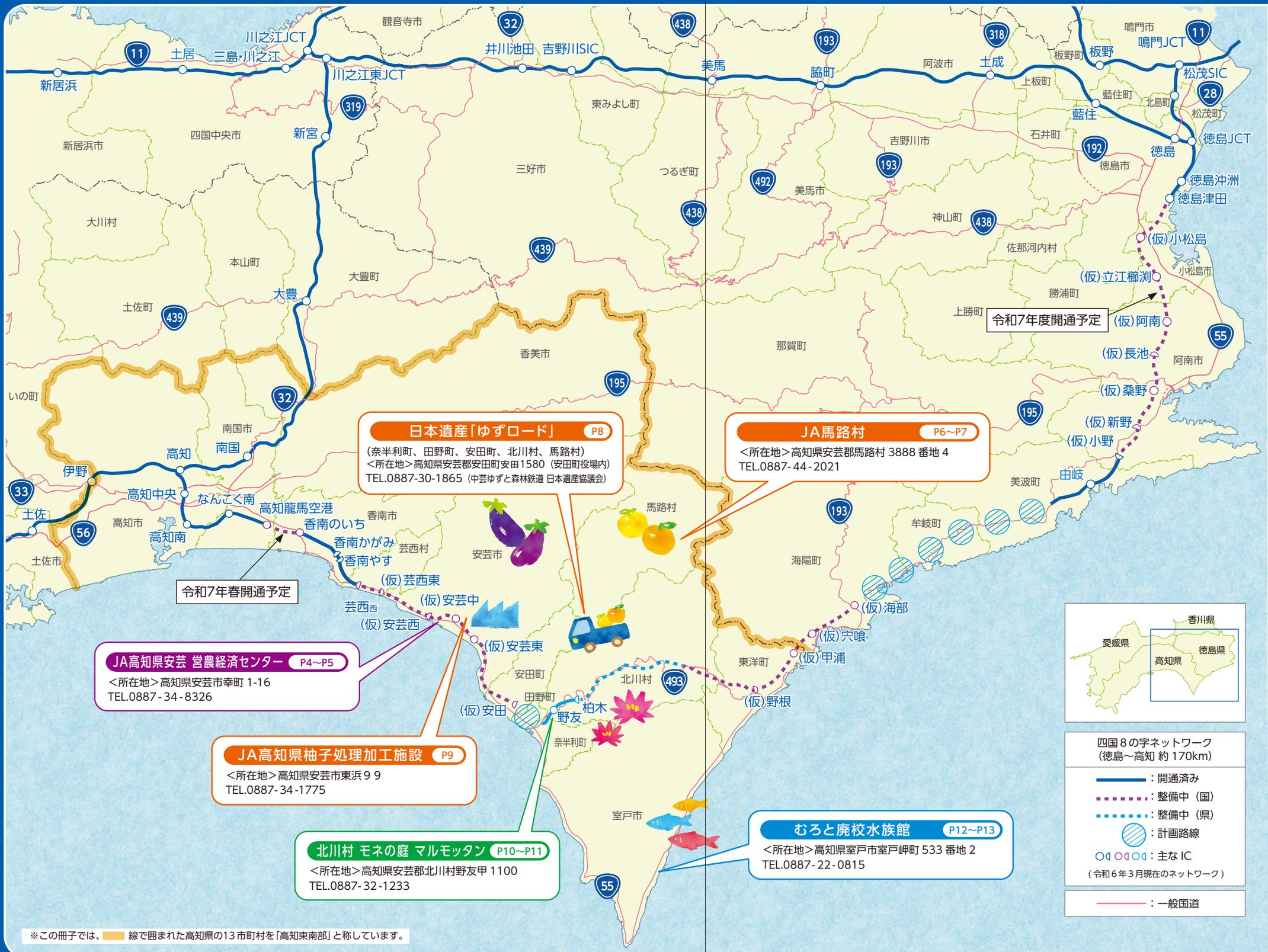
問合せ先：国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所
〒780-0055　高知県高知市江陽町 2-2
TEL.088-884-0359

2024年 3 月発行 1,000

https://www.skr.mlit.go.jp/tosakoku/pres/kochi_to-nan.pdf

高知東南部

道がつながり、人、産業、名産品が
つながり、ひろがり、魅力が伝わる



※この冊子では、　線で囲まれた高知県の13市町村を「高知東南部」と称しています。

安芸市

JA高知県 安芸営農経済センター

ナスの高付加価値化を通じて販路拡大、農業育成を

ナスは安芸市から京阪神、京浜を含む全国に出荷される知名度も高い野菜です。この魅力を高める新たな付加価値が期待されています。

JA高知県・安芸営農経済センター
部長 大谷 順之 氏

JA高知県・安芸営農経済センター
販売課長 笹岡 晶 氏

ナスは高知の風土に合った万能野菜

安芸営農経済センターではナス、ピーマンを始めとする野菜、ゆずなどの果樹、ユリ、ブルースター、トルコギキョウといった花卉を、農家からの委託で出荷しています。

このうちナスは普通ナスと呼ばれる種類が主で、10月から6月に収穫。冬春生産量では全国一です。温暖な高知の風土に合った作物で、どんな料理でも合う万能野菜です。安芸地域の生産は約2万トン（2022年9月ー2023年8月）ですが、ここ1、2年では2万トンを超え始め、昨年の販売額は74億円あまりでした。

環境制御など生産環境の整備にも取り組んでおり一軒あたりの収穫量が増えてきています。これまで経験や勘で行ってきた温度や水分、日射量などの調整を機械化したほか、ハウスの中の二酸化炭素濃度を上げて、成長を促しています。さらに、新品種の導入、生産面積の増加など様々な要因で生産量が伸びてきました。安芸市からは新規就農者の支援、ハウスや機器への援助などのバックアップもあり、生産者も増えてきています。

直送体制が取れるようになり、安価で鮮度が高いナスが消費地へ

安芸市には現在3カ所の集出荷場があり、選果機で規格どおりに選別されたものを全国に出荷、出荷先は京阪神、京浜向けが60％超を占めています。

現在、県下でナスの出荷量が一番多い安芸集出荷場では、午前に集めたナスをその日のうちに荷造りして、翌朝7時と11時の2便で高知市のJA高知県園芸流通センターまで運びます。そこで他の出荷物と混載にしてから、関東、関西方面へ出荷しています。

今後、四国8の字ネットワークが完成すれば、安芸市から西の高知市に運ばなくても、四国の東回りの直送体制で輸送が出来ます。収穫から消費地までの時間を1日から2日短縮することができるはずで、より鮮度が高いナスを消費地へ届けることも可能になります。しっかりとしたシミュレーションはこれからですが、輸送コストも下がるはずです。このメリットを実現するために四国8の字ネットワークの早期完成に期待しています。

血圧改善効果の機能性表示食品としてのブランディングも

JA高知県はエコシステム栽培として、安全、安心な野菜作りを促進しています。加えて、予約的相対取引という定量、定価による販売に取り組んでいます。ナス生産者が安定した手取りが得られるようになり、さらに生産者が増えれば地域活性化にもつながると思います。ただ、予約的相対取引には年間を通じた一定供給量を要求され、気温が低くなる冬季は出荷量が減るのが課題です。ハウスを暖房すれば冬も収穫量が増えますが暖房費、資材費がかかり燃料価格の高騰は頭が痛く、ブランド化による単価向上で相殺出来ればと考えています。ナスにはコリンエステルという物質が他の野菜に比べて多く含まれていて、高めの血圧の改善効果があります。JA高知県が機能性表示食品として登録し、販売する袋にも表示するなどして、高知ナスのブランド力の向上に努めています。

高めの血圧に効果がある機能性表示をしたナス

ナス料理・レシピ動画配信「なすマダム」のみなさん

ネットワーク開通で付加価値の高い取引増を期待

JA高知県全体として農産品の付加価値を上げることに努めていますが、消費地から離れている高知県は輸送手段と価格が直結しています。安定供給が出来れば、予約的相対取引の中で付加価値の高い取引が増えることが期待されます。ゆずなどはすでに輸出もされています。8の字ネットワークが整備され、さらに海外取引ノウハウが蓄積されれば、ユリなどの花卉も高知空港や関西空港から輸出することが出来るようになるかもしれないと期待しています。

収穫されたナスは、毎日梱包され全国へ出荷される

高知県農業協同組合 安芸地区 安芸営農経済センター　＜所在地＞高知県安芸市幸町 1-16　TEL.0887-34-8326

馬路村

JA馬路村

ゆずの加工・販売で村、地域の発展を

林業からゆず栽培に転換した後、有機栽培を売り物にしたゆず商品を製造、販売することで馬路村地域を支えています。

馬路村農業協同組合
代表理事専務　木下 彰二 氏

ゆずの全量買い取り、自社工場から加工品を直販

馬路村農業協同組合では、農家から持ち込まれたゆずを全量買い取り、加工・販売しています。年商約28億円で毎日約1000万円の商品が村から出荷される計算です。農協での雇用は95名、栽培農家は190戸。村の人口約800人のうち450人がゆずに関係しています。約70品目の関連商品を自社工場で生産しており、一部商品を除き約4～5万人の顧客へ有機栽培を売りに直販しています。

当村では元々、林業が盛んで収入が安定していたため、農業は片手間という形になり、手がかかる作物は作れませんでした。その後、林業経営の先行きが不透明になる中、試行錯誤しながらゆずにたどりついたのです。ゆずは消毒が大変なのですが、人手不足を逆手に取って、消毒しない「無農薬ゆず」として価値に変えてアピールし、加工製品を売り出すことになりました。

地道な努力で販路開拓、工場は一年中稼働

その後、百貨店への出展、電話やダイレクトメールで注文を受ける方法で販路拡大を図りました。さらに、"田舎を売る"というコンセプトをたてて、デザインやイラストを作成していきました。

毎日、ゆずの搾汁、加工品生産が行われる

こうした努力で「日本の101村展」でポン酢しょうゆ「ゆずの村」が最優秀賞になりました。このほか、「ごっくん馬路村」（ゆずドリンク）、ジャム　ドレッシングなどの商品を開発し工場が1年中、稼働するようになり、雇用創出が実現しました。現在では化粧品、シャンプー、リンスなども販売しています。

ゆずの原料は馬路村だけでは不足するため、北川村、安田町に加え、西部の津野町、梼原町でも作ってもらっています。馬路村と同じ生産方法で作ってもらう必要があるので、同じ仕様書（栽培マニュアル）に沿って栽培してもらっています。ゆずジュースは、缶で12か月、瓶だと4か月が賞味期限です。出荷先は関西よりも関東が多いのですが、新鮮な物をお届けしたいので添加物は入れていません。ですから、製品ができたら1日でも早くお届けしたいのです。

いかに顧客に村の情報を流せるかがポイント

さらなる顧客獲得、販路拡大にはいかに村の情報を流せるかがポイントです。お客様には、オーダーいただいた商品を届ける時にパンフレットなどを一緒に梱包しています。また、新規のお客様には、馬路村をアピールする資料を一緒にお渡ししています。直販しているお客様からの声で、ニーズを把握し改善などにも努めています。

ゆず商品の売れ行きやお客様の獲得は、収入、雇用などを通じて村の存続がかかっています。独自の販売ルートがあるのが我々の強み。今後も、直接お客様に商品を届けられる通販を伸ばしていきたいですね。

道路状況が毎日の仕事、経営に直接影響する

ゆずができるのは10月下旬から12月初旬まで。この期間にゆずを絞り、果汁を急速冷凍して高知市の冷凍庫に1年間、保管しています。そこから毎日必要な分の果汁を運んできて加工しています。そして製造した商品を帰りのトラックへ載せ、高知の営業所に持って行き、さらに出荷先別に宅配業者ターミナルへ届けます。そこから全国の消費者に配送します。ですから、悪天候などによる道路の通行止めや、渋滞による遅延は頭の痛い問題です。原材料が来ないと生産が止まってしまいます。道路状況が、毎日の仕事、経営に直接的に影響します。

四国8の字ネットワークが整備されれば、新たな物流ターミナルが高知県東部にもできる可能性があり、そうなれば高知市に運ばなくても村から東部回りで関西や関東に運べます。配送日数の短縮でさらなる販売拡大も期待できます。

一方で、観光への取り組みにも道路は重要です。現在、村への観光客は年4～5万人、清流の流れる川や千本山、温泉もあります。ただ、道路が1本しかなく、悪天候などで来訪できないこともあります。

安芸地域が広域で連携して、全体の価値が高まるのはとても良いことです。道がある程度つながっている2，3の地域から始めて成功事例をつくり、広げていけば良いと思います。

多くの見学者も訪れる工場の外観

馬路村農業協同組合　＜所在地＞高知県安芸郡馬路村 3888 番地 4　TEL.0887-44-2021

高知県東南部地域が誇る日本遺産「ゆずロード」

森林鉄道から日本一のゆずロードへ

～ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化～

高知東南部の中芸地域（奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村）は、かつては魚梁瀬杉を代表とする良質な杉に恵まれ、伐採木運搬のために森林鉄道が約 300km 敷設されました。林業が衰退した現在、地元民の努力によりゆずの栽培が盛んになっており、かつての森林鉄道用に造られた橋や隧道（トンネル）は現在、ゆず畑の広がる「ゆずロード」となっています。一方で、これらの橋や隧道は、貴重な文化遺産として国重要文化財に指定され、更に地域の食文化や歴史、伝統行事、風景などを加えた文化財とストーリーが平成 29 年（2017 年）に「日本遺産」として認定されることになりました。

かつての魚梁瀬森林鉄道（高知市立高知市民図書館蔵）

現在の「ゆずロード」ゆずや木材を積んだトラックが往来する

～ゆずロード～（日本遺産協議会活動のご案内）

地域の川沿いや山間に広がるゆず畑の小さくかわいい白い花、深く鮮やかな緑の葉、熟すると共に濃くなる果実が季節毎に景観を彩り、ゆず寿司などの風味豊かな郷土料理と共に、年中「ゆずロード」を訪れる人々を楽しませ、癒やしてくれます。

この地域の日本遺産について理解を深めていただき、地域の活性化につなげるために協議会ではゆずロードミュージアムの開設（日本遺産関係の写真パネル、ジオラマ模型展示）、ゆずロードガイドツアーの開催（日本遺産の案内ツアー）、ゆず Fes（日本遺産をテーマにしたイベント開催）を行っています。

ゆずロードガイドツアーの開催（日本遺産の案内ツアー）

ゆず香る土佐の皿鉢（さわち）料理

▼以下のホームページでご確認の上、ぜひ一度「ゆずロード」を訪れてみませんか。

日本遺産 ゆずとりんてつ
奈半利町・田野町・安田町・北川村・馬路村

中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会

TEL.0887-30-1865　E-mail:yuzurintetsu@mk.pikara.ne.jp

ゆずとりんてつ　検索　Click!　http://yuzuroad.jp

日本一のゆず産地にある出荷量日本一のゆず搾汁施設

高知県のゆず出荷量は全国の 53%（令和２年産）で日本一と言われています。

近年ではゆずの加工品開発および販売が順調であったことから新植も進み、栽培量も増加しています。この日本一と言われる高知県のゆずの生産量の約 52%が高知県東南部で生産されています。

1981年に操業を開始した安芸市にあるゆず搾汁施設は、先に述べた情勢を背景に規模が拡大され、現在では加工用として年間 2,700トン～3,500 トンを搾汁して、国内のポン酢や飲料メーカーのみならず、シンガポール、アメリカ、ヨーロッパなど海外へも年間 100 トン近くが輸出されており、年間販売額は約14 ～15 億円と日本一の搾汁施設となっています。

果汁のみならず皮も漬物用、サラダ用、お菓子用、化粧品用として使用されるため、併設されている玉（ゆず、ポンカン）の選果・出荷施設と併せて年間を通じて出荷が行われています。

10 月末～ 12 月初旬の収穫期には搾汁用ゆずが次々に届く

ゆずは洗浄された後、必要に応じて冷蔵（冷凍）保管され、プラントにて皮がむかれ、搾汁され、果汁、皮、それぞれ出荷されてゆく

- ●施設名称　JA 高知県柚子処理加工施設
- ●施設面積　約 2,900 ㎡
- ●取り扱い量
  - ◆ゆず酢玉（搾汁用）
    約 2,700トン（最大 3,700 トン）
  - ◆ゆず、ポンカン青果
    約 300 ～ 400トン
  - ◆販売先
    ゆず果汁　国内大手ポン酢・飲料メーカー
    ゆず青果　全国の卸売市場
    ゆず皮　　国内大手製油メーカー

ゆずの果汁は国内大手のポン酢や飲料メーカーなどで商品化される

北川村

モネの庭 マルモッタン

「光の庭」再オープンやイベントで浸透

フランス印象画クロード・モネの世界を再現した「北川村 モネの庭 マルモッタン」。集客アップのためリニューアルやイベント開催にも取り組んでいます。

株式会社きたがわジャルダン
代表取締役社長 和田 昌敏 氏

株式会社きたがわジャルダン
庭園管理責任者 川上 裕 氏

奇跡の経緯で生まれたフランス印象派巨匠の庭

和田：「北川村 モネの庭 マルモッタン」は、北川村が筆頭株主の第三セクター、きたがわジャルダンが運営しています。開業2000年で今年で24年目、パリ郊外のジヴェルニーにあるフランス印象画の画家クロード・モネの庭を再現しています。

これまでの経緯はいわば奇跡だと思います。村おこしのゆずワインのプロジェクトが突然、キャンセルされて、すでに補助金も出ていて事業はやめられない、という事態に陥ったそうです。その時、プロジェクト関係者がたまたま読んだ記事から、これ（モネの庭）やってみないかと提案があり、当時の担当者は突然現地へ行くことになりました。とにかく必死だったんでしょう、モネ財団の理事長の故ヴァン・デル・ケンプさんがその熱意に感じるものがあったのか、北川村を応援してやれ、とおっしゃってくれたそうです。

最初はダメ出しも、モネの精神を受け継ぎ信頼関係

和田：モネ財団の指導を受け着手しましたが、最初はダメ出しされて、うまくいかなかったそうです。開園後数年を経て、今の庭園管理者の川上裕が入ってやり直しながら仕上げていきました。

モネの世界観を再現できているかどうか、不定期にフランスから監査があるのですが、想いをもってがんばり続け、信頼関係を醸成していきました。光の画家と言われるモネの精神を受け継ぎ絵画の世界を表現する、それが一番のコンセプトです。

川上：私は2003年から庭の責任者になりましたが、最初から改良点が山ほどあり、当初想定したより遙かに大変でした。フランスとは気候や風土が違うので、土を作り苗を作りと徐々にしかできない、描いた庭に近づくまで10年以上かかりました。

「光の庭」を地中海の庭にリニューアル

川上：既にあった「花の庭」「水の庭」に加えて、モネがジヴェルニーに移り住んだ1883年に訪れて感動し大きな影響を受けたという北イタリアのボルディゲラをモチーフとした"光の庭"を2008年にオープンしたものの、その後の多湿な高知の気候により、地中海のドライなイメージが崩れてきた為、改めて原点に立ち戻り、"光ボルディゲラの庭"として全面刷新して2020年に生まれ変わりました。

再オープンした地中海がテーマのボルディゲラ「光の庭」

イタリアのドライ感を出すために、フランスの専門家や、牧野植物園の知り合いにも聞いて、これならいけると。その後、来場者からも喜ばれるようになりました。

徳島県と高規格道路でつながれば、関西から日帰りも可能に

和田：お客様は女性が多く7ー8割、年齢層は高めです。ただ、夜のイベントを充実させたり、花火をあげたりして、若い層にも浸透してきています。累積の入場者は200万人で、昨年は初めて年間10万人超えました。半数は高知県でかつ6割が四国、さらに中国地方、首都圏、関西圏を中心とした個人客、団体客です。車での来訪が多く、滞在時間は1時間半～2時間ぐらいでしょうか。気持ちが内向きになったコロナ時代は、むしろ我々を強くました。TV番組に紹介され、毎日更新するインスタ、X（旧ツイッター）のフォロワーも増えましたし。

川上：「モネの庭」というネームバリューは非常に大きいです。これを利用して、徳島県、関西圏の方を呼び込み、高知県東部全体の各施設、地域と連携できればいいですね。

和田：2023年NHKの朝ドラ「らんまん」効果で人気が高まった牧野植物園、徳島の大塚国際美術館、モネの庭を周遊されるお客様も多くいらっしゃるようです。当社としても、共通項があり連携もしやすいです。高知県東部は大きな宿泊施設がないのが課題です。体制を整備して、複数の観光ポイントを結ぶ周遊ルートを作りたいですね。アクセスの相談は90％が徳島県からです、高規格道路が徳島県と直結したら近畿も日帰り圏内です。日帰りでも、モネの庭、高知東部が周遊できるようになると期待しています。

モネが愛した睡蓮と水面の光の反射が美しい「水の庭」

モネの庭　マルモッタン　＜所在地＞高知県安芸郡北川村野友甲 1100　TEL.0887-32-1233

室戸市

むろと廃校水族館

廃校水族館を活かし地域とともに歩む

ウミガメの調査から廃校を利用した水族館の経営に携わっています。多くの観光客にまた来たい！と思ってもらえるよう様々工夫しています。

むろと廃校水族館
館長 若月 元樹 氏

低建設費、指定管理料ゼロ、赤字補填なしを実現

「むろと廃校水族館」※は、その名の通り、廃校になった小学校（旧椎名小学校）を水族館にして運営しています。きっかけは、私の属するNPO日本ウミガメ協議会が国土交通省から「ウミガメの産卵に影響がないよう国道に橋を作りたい」と相談を受けたことです。その後、2003年から室戸市に職員を常駐させて、定置網に入るウミガメの調査を続けていました。予算的な問題から撤退も検討しましたが、その間に、地元との関係が深まっていました。さらに、室戸市は水産資源が豊かで人が明るい。それなら廃校を活用して室戸で調査を続けたい、という気持ちになりました。

ある時、前市長に「廃校のプールでウミガメ飼っていいですか」と雑談しているうちに、水族館の可能性があるかもしれないと思いました。でも、水族館は費用がかかります。当館と同じく2020年に開館した香川県の「四国水族館」は70億円かかっていますが、当館はトータルで5億5000万円、水族館部分は1億円です。ただ、廃校に5億円というのは市民感情としてかなりの額と感じたかもしれません。

また、指定管理者になると、指定管理料を自治体からいただきながら運営することが通常ですが、ここはゼロ。入館料とグッズの売り上げだけでやっていて、けっこうがんばっていると思っています。どうしたら指定管理料ゼロで赤字補填なし経営が可能なのかを知りたくて、今でも全国各地から視察に訪れます。

室戸市で獲れたものにこだわり展示

コンセプトは室戸市の海洋生物を展示することです。通常の水族館は日本や世界中から生き物を買ってきて、その生態に合わせて水槽を作りますが、当館は予算がないので、生き物が来てから考えます。例えばマンボウが来ると、うちの水槽施設では長生きできないので、元気なうちに一週間だけ展示して、まだ元気なうちにまた海に返す。地元で獲っているからできるんですね。

朝、「獲れた」と連絡が入ると、職員が取りに行きます。商品として売れないもの、よく分からないもの、傷がついているもの、などをもらってきます。

国道の行楽客の呼び込み・県外からの集客増で、地域の発展に貢献

大切なのは、国道を通る行楽客をどれだけ呼び込めるかです。損益分岐点は入場者年間4万人に設定しましたが、1年目は16万人と大幅に上振れしました。

県外からのお客様は関西圏が多く、徳島県の大塚国際美術館から当館を回るのがルートになっているようです。8の字ネットワークが開通したら、徳島ルートのお客様が増えると期待しています。今も電話問い合わせは徳島方面が多いです。

入場料を大人600円、小中学生300円と低く抑えているほか、グッズなども工夫しています。車なら持ち運びが便利なので、市街の水族館に比べてぬいぐるみをいくつも買ってくださる人が多いんです。

地元で獲れた魚、えいが泳ぎまわる水槽

かまぼこやおでんを地元の業者と共同開発しました。既存のお土産も全量買い取り方式で仕入れていて、地元が潤うようにしています。当初、「また赤字施設を作るのか」などと反対もあったので、味方を大勢作りたいと思ったのです。最近では「サバらしい日々」と題したイベントで、14の飲食店、3つの観光施設の共通チケットを作りました。この地域が盛り上がって観光客が増えれば魚が売れて、漁業者の収入も上がります。当館だけでなく、他の地元の事業者も一緒に生き残り発展していかないと、地域も当館も未来はないと思っています。

知名度の活用と周遊に必要な施設整備を要望

室戸市には、もっと今の廃校水族館の知名度を活用してほしいと思います。例えば泊まりたくても泊まるホテルがない、室戸岬や道の駅キラメッセ室戸の駐車場整備も必要です。当館は小さな施設で滞在時間は一時間程度と短い。他のところを周遊してもらえばいいと思います。高知県には車で旅行して7泊8泊できるぐらいの魅力的なコンテンツがあるのですから。

室戸市の海で獲れたウミガメが泳ぐプール、毎日スタッフが見回っている

※正式名称は「室戸市海洋生物飼育展示施設むろと海の学校」

むろと廃校水族館　＜所在地＞高知県室戸市室戸岬町 533 番地 2　TEL.0887-22-0815

（高知県東南部）四国８の字ネットワークと ともに つながる、たかまる 地域のちから

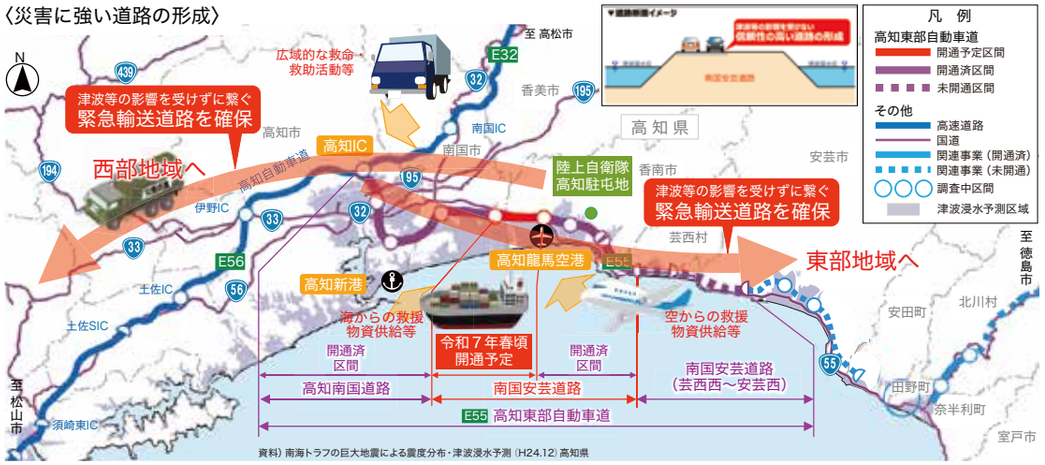
地域の魅力・取り組みをつなげ、さらなる地域価値のたかまりやひろがり、そして 災害に強い、持続的な地域づくりのために、みなさまとともに道づくりを進めています。

信頼性の高い緊急輸送道路の確保

●国道32号・55号は、南海トラフ巨大地震による津波浸水等により分断され、緊急輸送道路としての機能を失う恐れがあります。

●津波等の影響を受けずに高知自動車道・高知新港・高知龍馬空港や陸上自衛隊高知駐屯地をつなぎ、救急・救命活動や救援物資の供給等を行うための災害に強く信頼性の高い緊急輸送道路を確保します。

〈災害に強い道路の形成〉



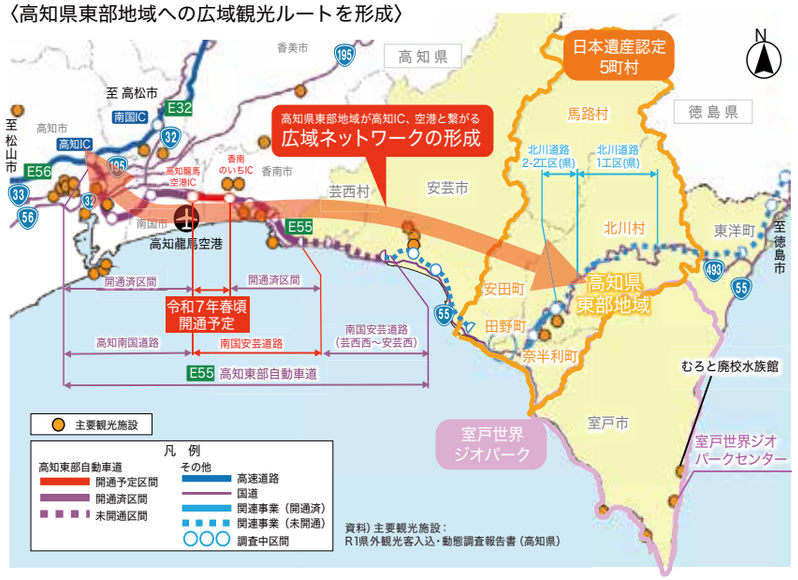
資料）南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測（H24.12）高知県

広域ネットワークの形成による交流人口の拡大

●高知県東部地域では、室戸世界ジオパークセンターの開設や中芸5町村の日本遺産認定などの様々な地域の取組や新たな観光施設により、主要観光施設の利用者数は増加傾向となっています。

●全線開通した高知南国道路に加え、南国安芸道路（高知龍馬空港IC～香南のいちIC）の開通により広域ネットワークが形成され、高知龍馬空港や高知自動車道と高知県東部地域がつながることで、更なる交流人口の拡大が期待されます。

〈高知県東部地域への広域観光ルートを形成〉



資料）主要観光施設：R1県外観光客入込・動態調査報告書（高知県）

国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所　<所在地>高知県高知市江陽町 2-2　TEL.088-884-0359

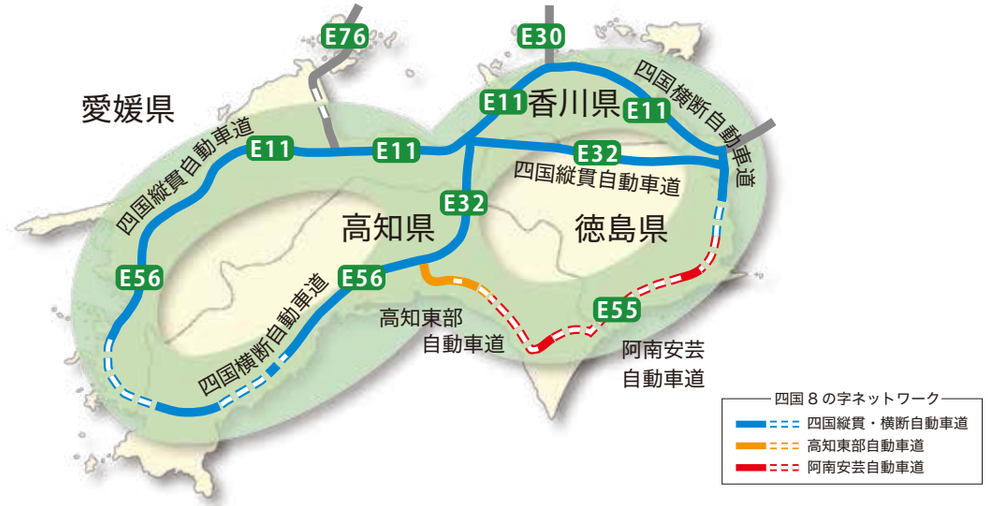
安全で快適便利な暮らしをめざし、未来へと希望をつなぐ広域的な規格の高い四国８の字ネットワークづくり

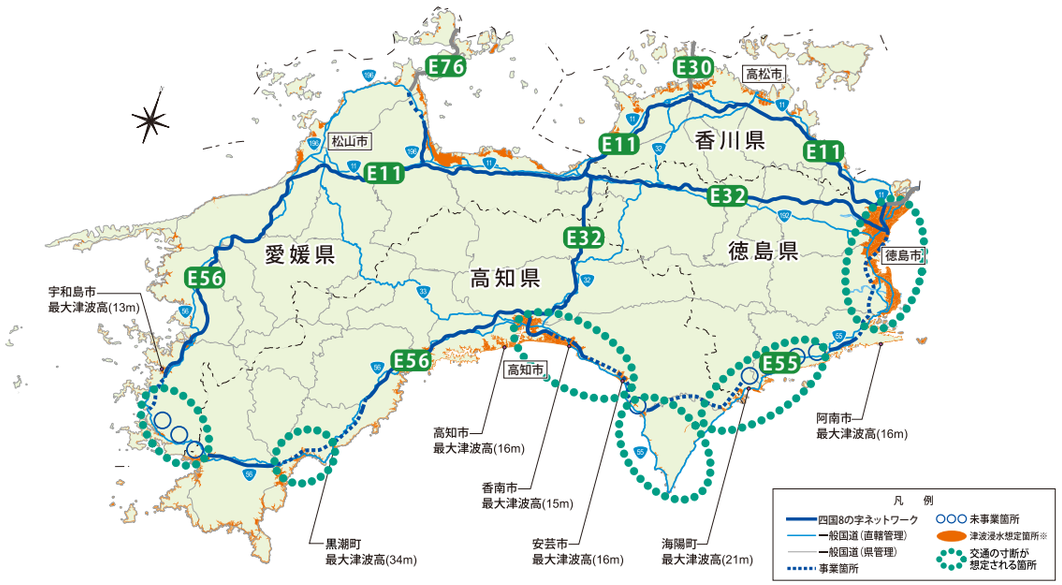
●地方の中心都市を効率的に連結します。

●緊急医療施設へのアクセス性及び走行性の向上に貢献します。

●南海トラフ巨大地震発生時の緊急輸送道路の確保に貢献します。

●豪雨・洪水時においても寸断されることのない　安心・安全な道路ネットワークを確立します。



大規模災害発生時における道路の現状と課題

●地震による津波での予想浸水箇所は、高規格道路未整備区間（四国の東南部及び西南部）に集中しています。